



新教出版社 出版通信

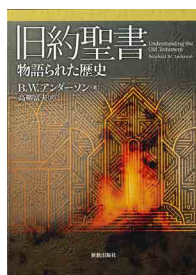
2024年
7月

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 Tel: 03-3260-6148 Fax: 03-3260-6198
ホームページ: <https://www.shinkyō-pb.com/>

旧約聖書特集

旧約聖書

物語られた歴史



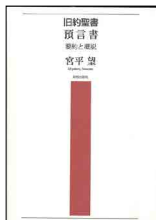
B・W・アンダーソン [著] / 高柳富夫 [訳]

◆ A5判・872頁・定価7370円

1957年の初版以来5度におよぶ改訂を重ね、今日にいたるまで半世紀以上も旧約入門・概説書として絶大な信頼を得ている名著。著者の流麗な筆致は、歴史的研究、考古学的調査、文学批評、聖書神学をひとつの「物語」に編み込み、900頁近い大著ながら、読者を巨大で複雑多様な旧約の世界に引き込んで飽きさせない。

宮平望氏の旧約聖書シリーズ 全4冊完結！

旧約聖書の諸文書を、すべての章ごとに、ヘブライ語原典に基づいて要約し、新約の視点からメッセージを解説する。創見に満ちた解釈を随所に盛り込み、旧約聖書の通読と学びが楽しくなる好著。みやひらのぞむ氏は西南学院大学教授。



1 旧約聖書 律法書 要約と概説 ◆273頁・定価1980円

2 旧約聖書 歴史書 要約と概説 ◆368頁・定価2090円

3 旧約聖書 文学書 要約と概説 ◆368頁・定価2090円

4 旧約聖書 預言書 要約と概説 ◆305頁・定価2530円

詩篇の思想と信仰 全6巻 月本昭男著

つきもと・あきお氏は立教大学・上智大学名誉教授



最大級の詩篇注解 金字塔的業績！

- I 第1篇から第25篇まで
- II 第26篇から第50篇まで
- III 第51篇から第75篇まで

定価 3850円
定価 4180円
定価 3630円

- IV 第76篇から第100篇まで
- V 第101篇から第125篇まで
- VI 第126篇から第150篇まで

定価 3850円
定価 4290円
定価 3740円

● 2 月 刊 行

われら主の僕

リベラルアーツの森で生まれ

ICU 伝道献身者の集い編

◆ A5 判・定価 2100 円



国際基督教大学は献学以来、牧師をはじめ数多くの伝道者を輩出してきたことでもよく知られる。この特異な学舎で彼らの献身の志はいかにして育まれたのか。70名余りの卒業生たちの、遺稿も交えて記される興味尽きない証し。

● 2 月 刊 行

教会論と終末論

サクラメントと終末論を視野に入れた教会論

松田 央著

◆ 四六判・定価 2200 円



イエスの言行に現わされた福音を信じ、教会生活を通して信仰を実践し、終末を待ち望む——この道筋を聖書に即して分かりやすく解説。キリスト論、教会論、特にサクラメント論、そして終末論を学ぶための好著。

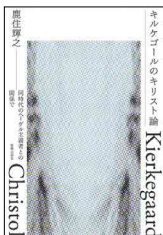
● 1 月 刊 行

キルケゴールのキリスト論

同時代のヘーゲル主義者との関係で

鹿住輝之著

◆ A5 判・定価 4950 円



キルケゴールの体系批判は同時代のヘーゲル主義者に向けられていた。デンマーク社会の近代化に直面した彼らの対応の相違をキルケゴールのキリスト論に見出し、その理路を解明した俊英の力作。

● 10 月 刊 行

不安という相棒

四つのタイプとどう向き合えばよいか

フリッツ・リーマン著／赤坂桃子訳

◆ 四六判・定価 2970 円



不安は私たちの人生から除き去ることはできない。精神分析的視点から不安を四つのタイプに分類し、不安に対処し、良い人生を生きるために、より良い対処法を豊富な例証と共に記述。戦後ドイツのベストセラー。

鈴木範久著

内村鑑三問答

60年にわたり内村と向き合い続け、記念碑的な『内村鑑三日録』全12巻を世に問うなど、終始内村研究を主導してきた著者が、「なぜ最初の結婚は破綻したのか」「新島襄から離れたわけは」「天皇をどうみたか」など、更なる解明を要する24の「謎」を取り上げ、その人格と思想に迫る。巻末に、著者が現時点で最も正確と考える年表を付す。
四六判・予価3300円

ミロスラフ・ヴオルフ著／彦田理矢子訳

排斥と抱擁 アイデンティティ・他者性・和解についての神学的探求

異質な者を憎悪し、殺し、排斥しようとする者を、私はどのようにして愛し、抱擁することが可能なか。暴力が猛威を振るう世界の中で和解の道はあるのか。凄惨な内戦を経験したクロアチア出身の著者は、この問題を探求した本書（1996年）を、自らの知的葛藤の記録であると同時に霊的旅路の記録とも呼ぶ。『クリスチャニティトゥデイ』誌が「20世紀で最も影響力のある100冊」に選んだ書の待望の邦訳。
A5判・予価7700円

マシュー・ホケノス著／穂田信子訳

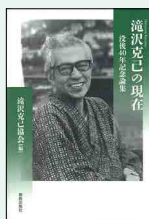
マルティン・ニーメラー ヒトラーに逆らった牧師「仮題」

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第一次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もおナショナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ、戦後はエキメニカルな場で活躍した激動の生涯。
四六判・予価3500円

● 5月の新刊と雑誌

滝沢克己の現在

滝沢克己協会編 没後40年記念論集



滝沢克己の現在
没後40年記念論集
滝沢克己協会編

滝沢が最晩年に欧州の神学界に問おうとした「純粹神学」は、没後40年を経て今なお読む者を挑発し続ける。それに応答した14名の渾身の論考を収録する。
◆四六判・定価3740円

クイア神学入門 その複数の声を聴く

クリス・グリノフ著／薄井良子訳



本書は、クイアとキリスト教に関する基本的な概念を平易に解説すると同時に、これら複数の神学的な冒険の歴史と最前線の議論を紹介する。多くの人の疑問に答え、新たな理解と更なる学びへと促す。
◆四六判・定価2970円

福音と世界

6月号 依存と信仰

◆定価660円

寄稿者：杉岡良彦、小西直理子、齋藤篤、栗田隆子、

加藤武士／ムンター・イサーク、空閑厚樹

新連載 インタビューシリーズ 女たちの闘い

連載 田島卓、今高義也、長尾優、C・J・サンダース&

A・ヤーバー、山崎ランサム和彦、勝村弘也

販売部から

小社の書籍をご購入された方々から「愛読者ハガキ」が届きます。その中に『福音と世界』を創刊号以来愛読されて下さる読者の方から「愛読者ハガキ」が届きました。その一部をご紹介します。

「小生は一〇一歳の引退牧師であります。『福音と世界』誌の創刊号以来、愛読者でいつもシゲキ受けています。戦後、御社の長崎次郎氏とも親しくさせて頂いた。御社を舞台に神学的活躍し先般召された東北学院の森野善右衛門さんとは仲間です。御社の『福音と世界』誌が更により福音の証しとして御発展されることを祈り申し上げます」

一〇一歳というご年齢に驚き、創刊号以来愛読されていらつしやる読者という方に感銘を受けました。一九五二年に創刊した『福音と世界』は今年七二年を迎えます。長崎次郎は新教出版社の初代社長、森野善右衛門先生の著書も幾冊か出版しています。皆様から届く『愛読者ハガキ』は出版社にとって何よりのエールです。新教出版社は今年創立八〇年を迎えます。読書離れといわれる昨今ですが、皆様の心に届く出版物をこれからも刊行していきたくと願っています。(金沢)

編集部から

二〇二四年度の「キリスト教書店大賞」の選考が始まりました。この賞は、昨年一月から二月までの間に出版されたキリスト教書の中から、「いちばん読んでもほしい本」を全国のキリスト教書店の店員さんたちが投票で選ぶものです。第一次選考では一〇作品をノミネートするのですが、小社の本が二冊選ばれました。寺園喜基『カール・バルト《教会教義学》の世界』と、在日本韓国YMCA編『交差するパレスチナ——新たな連帯のために』です。例年この大賞は、どちらかと言えば入門的な読みやすい本が受賞する傾向にありますので、小社の本はなかなか選ばれません。この二冊のような硬派な本がノミネートされるのは嬉しいことです。とりわけ『交差するパレスチナ』には、ガザで行われている戦争に心を痛めている書店員さんたちの意識の高さがかがわれます。ちなみに二〇二二年度の大賞は小社から刊行された奥田知志著『ユダヤ、帰れ——コロナの時代に聖書を読む』に与えられました。大賞作品もノミネート作品も、各出版社が力を込めて送り出している本ですので、皆様の読書計画の参考にしていただければ幸いです。(小林)

福音と世界

2024年
7

特集：日本宗教史におけるキリシタンから現代へ

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8760円

日本の宗教状況における
キリシタンの意義——狭間芳樹

朝鮮カトリック教会の形成と展開
——迫害とその政治的目的——朴 銀瑛

日本宗教史におけるキリシタンの存在について問う——メナチエ・ダリオ・アンドレシ

「キリシタン」が日本宗教に与えた意義と影響、そして「意味」——三輪地塩

キリシタンに学ぶ日本の宗教性——遠藤周作

『沈黙』より——長谷川(間瀬)恵美

キリシタン時代から現代へ——芦名定道

ウクライナ戦争即時停戦論とドイツのキリスト教会——川田洋一

【好評連載】
◆ 女たちの闘い 声を紡ぐ、織りなす 依田康子さん②
◆ 証言としての旧約聖書 2 田島 卓
◆ 八木重吉の聖書 12 今高義也
◆ 私は告白する、私の神を 16 長尾 優
◆ 教会を捨てるイコロケリシヤン 27 サンダース、ヤハバ
◆ 「日本的キリスト教」を読む 27 山口陽一
◆ 新約釈義 ルカ福音書 31 山崎ランサム和彦
◆ 古代イスラエル文学史序説 40 (最終回) 勝村弘也